

おうちでペットを飼っている 子育てママへのお知らせです

ペットから人に感染する病気があるのをご存知ですか？
小さなお子様もペットも大切な家族。
どんな病気なのかしっかりと理解して、お子様を守ってあげましょう。



Q. どうして小さな子どもはペットからの感染症に気をつけなくてはいけないの？

A. 免疫力や抵抗力が弱く、感染症にかかりやすいから。
ひとたび感染すると重い症状になりやすい傾向があります。

赤ちゃんや小さなお子様のこんなことが、感染のきっかけに…

口のまわりを
ペットがべるべる



ペットのトイレに
接近



ペットに抱きつき
体をすりすり



何でもさわって
ばくばく、べるべる



具体的な病気や予防方法は、次頁で詳しくご紹介しています。



ペットからお子様うつるかもしれない感染症

犬回虫症／猫回虫症

回虫の卵が口に入ること感染。体内に入った回虫は幼虫のまま体内を移行して、さまざまな症状を引き起こします。特に幼児への感染は危険で、移行先によっては視力障害などの原因となります。

猫ひっかき病

猫に咬まれたり、ひっかかれたりして感染します。病原体を持っている犬やノミから感染することも。幼児の感染が多く、発熱や疼痛（ずきずきとした痛み）、リンパ節の腫れが数週間から数カ月続きます。

瓜実（うりざね）条虫症

瓜実条虫に感染するノミの幼虫が口に入って感染します。幼児の感染が多く、腹痛や下痢、ときには神経症状が出ることもあります。

そのほかにも皮膚糸状菌症（カビによる皮膚の病気）やパストツレラ症などの病気のリスクもあるので注意しましょう

ママのしっかりケアで、これらの病気を予防しましょう！



お子様へのケア あんしんの5か条

- 病院にかかる場合は先生にペットを飼っていることを必ず伝える
- 目が届かない所でのお子様とペットとのスキンシップは避ける
- ペットの排泄物に触れさせない。またトイレに近づけないようにする
- 砂場遊びの後はもちろん、普段から手洗いをこまめにおこなう
- 風邪などで体調がすぐれない場合はペットと遊ばせるのを避ける



ペットへのケア あんしんの5か条

- 定期的に動物病院での検診やワクチン接種、寄生虫の駆除（定期駆虫）をおこなう
- 散歩の際、草むらを自由に歩かせたり、電柱のニオイ嗅ぎなどを控える
- 体調が悪いと感じた場合はかかりつけの動物病院で診てもらう
- シャンプーやブラッシング、爪切りをして、いつも清潔にしておく
- ペットに家族の順位づけをきちんとしつける

これだけはやっちゃダメ！



小さなお子様の寝室にペットを自由に行き来させている

ペットを抱っこしたり、遊んだ後、手を洗わずに赤ちゃんを抱っこする

じゅうたんや床にホコリやペットの毛などが落ちていても気にしない

MEMO 1

アメリカでは

感染症防止のために小児科医と獣医師が連携。CDC*が発表した勧告では、ペットから子どもへ感染する病気の危険性が指摘されています。

※CDC…アメリカ疫病予防管理センター。感染症の研究や治療に関する情報を世界中に発信する政府機関。

MEMO 2

法律では

「動物に起因する感染症の予防のために必要な注意を払うこと」は動物愛護法で定められた飼い主さんの責務です。

楽しく健やかな暮らしのために、動物病院でペットのケアも。